

表 4.11-10 (1) 確認された植物群落の概要 (445 ページより抜粋)

区分	群落名	相観、形態、分布状況等	
樹林 植生	河畔林	コゴメヤナギ群落 河川中流域の礫質の河原に形成される高木林であり、 <u>中部地方のブナクラス域を流れる河川の自然植生と位置付けられる。</u> 調査範囲では三峰川河川敷に比較的まとまって分布する。群落高は 16m 程度であり、高木層にはコゴメヤナギのみが生育する。草本層には明るい草地内や林縁環境に生育する種が多くみられた。	
	二次林	オニグルミ群落	溪流沿いなどに生育する落葉広葉樹のオニグルミが優占する群落である。群落高は 12m 程度であり、オニグルミが優占する高木層の下には低木層、草本層が形成されている。低木層にはアブラチャン、バイカウツギ、ケケンポナシが優占し、草本層にはやや暗い湿潤な環境に生育する植物が多く確認された。 <u>山地溪谷の自然植生であるケヤキ群落の構成要素であるオニグルミ、エゾエノキ、ケケンポナシ等が生育することから、ケヤキ群落の代償植生と位置付けられる。</u>
		コナラ群落	落葉広葉樹であるコナラが優占する群落である。調査範囲では南部の丘陵斜面に小規模な群落が点在する。群落高は 16m 程度である。優占するコナラのほか、ホオノキ、ヤマザクラ、アオハダなどの高木、低木性のアブラチャン、ソヨゴ、ネジキ、コアジサイなどの木本類が多く生育する。草本層は生育種が少なく、植被率も低い。
		クヌギ群落	落葉広葉樹であるクヌギがまとまって生育し群落を形成している。調査範囲では南東部の植林地帯に分布している。
		アカマツ群落	常緑針葉樹であるアカマツの高木林である。調査範囲では西部の尾根筋に分布する。群落高は 20m 程度であり、アカマツ以外の木本類は非常に少なく、低木層、草本層の植被率は 1% とわずかである。
		ハリエンジュ群落	外来種の落葉広葉樹であるハリエンジュの密生群落である。調査範囲では、三峰川の低水敷に広く分布している。群落高は 6m 程度であり、林床には、路傍や林縁に生育する植物が比較的多く生育している。
	竹林	モウソウチク群落 調査範囲では、南東部の民家脇斜面に分布している。密生するモウソウチクの葉が林冠を被うため、樹林内は薄暗く、やや暗い湿潤な環境に生育するシダ植物や草本層が多くみられた。	
	植林	スギ・ヒノキ植林	調査範囲では南部の斜面に点在する。群落高は 15m 程度であり、スギ、あるいはヒノキが植林されている。高木層にスギ・ヒノキが優占し、低木層にはアブラチャンが多くみられ、草本層には薄暗く湿潤な環境下に生育する種が多くみられる。
		カラマツ植林	落葉針葉樹のカラマツの植林である。調査範囲では南部の斜面に広く分布する。群落高は 25m 程度であり、カラマツが優占する高木層の下には、低木層にアブラチャンが高被度で優占する。一方、草本層は植被率が 1% と低く、20 種程度がわずかに生育する程度である。
	草地 植生	湿性 草地	ツルヨシ群落 河川上～中流域の水際に形成される群落であり、 <u>河川流水辺の自然植生と位置付けられる。</u> 調査範囲では三峰川及び新山川の流水辺、低水敷に分布する。群落高は 2.5m 程度であり、ツルヨシ 1 種が密生する。

表 4.11-10 (2) 確認された植物群落の概要 (446 ページより抜粋)

区分	群落名	相観、形態、分布状況等
湿性 草地	ヨシ群落	ため池の岸や水田跡地などの泥湿地に形成される群落である。調査範囲では、南部の河岸段丘面の水田跡地に小規模な群落が形成されている。 群落高は 2.5~3m 程度であり、優占するヨシの下層にはクサヨシ、セリ、ミゾソバなどの湿性種が生育する。
	ガマ群落	ため池や河川の泥湿地、水田跡地などの過湿地に形成される群落であり、調査範囲では、南部の河岸段丘面の水田跡地に小規模な群落が 1 箇所のみ形成されている。 群落高は 2.5m 程度であり、優占するガマの下層に <b>アキノウナギツカミ</b> 、ヒメシダ、コウヤワラビ、チゴザサなどの明るい湿地に生育する種がみられる。
	クログワイ群落	クログワイは水田内や休耕田に一斉群落を形成することがある。調査範囲では水田地帯の休耕田に小規模な群落が確認された。秋季調査時には草刈後に火入れされていた。 群落高は 0.6m 程度であり、優占するクログワイの下層には、生育する植物は少なく、アゼナ、コナギ、キカシグサなどのいわゆる水田雑草がわずかに生育する程度である。
草地 植生	クズ群落	蔓植物であるクズが一面を覆うように生育し群落を形成している。調査範囲では、耕作地脇の斜面、三峰川の高水敷などに分布する。 群落高は 1.5m 程度であり、クズが高い密度で生育するため、他の植物の生育はわずかである。
	カワラヨモギ群落	礫河原に群生することが多いカワラヨモギの優占群落であり、 <b>河川砂礫地の自然植生に位置付けられる</b> 。調査範囲では、三峰川の河原に分布する。 群落高は 1m 程度であり、カワラヨモギの他、ビロードモウズイカ、メマツヨイグサなどの荒地性の種が混生する。
	オギ群落	<b>河川中～下流域の自然植生と位置付けられ</b> 、河川敷の数年に 1 回程度冠水する立地にみられる群落である。調査範囲では三峰川河川敷にわずかに確認された。
	ススキ群落	明るく乾性な立地に形成される群落であり、調査範囲では河川の高水敷、堤防法面に分布する。 群落高は 2~3m 程度であり、クズやメドハギ、ヒメジョオンなどの草本類がわずかに生育するほか、ヌルデ、ハリエンジュなどの木本類の侵入も確認された。
	ヒメジョオン群落	造成地、畑跡地などに形成される群落である。調査範囲では、水田地帯の一角に小規模な群落の点在が確認された。 群落高は 1.5m 程度であり、ヒメジョオン、ヒメムカシヨモギが上層に優占し、仮想にはウシハコベ、ヤハズエンドウ、エノキグサなどの耕作地や路傍生の種が生育する。
	オオブタクサ群落	オオブタクサは高さ 3m にもなる外来種大型草本である。本種は河川、荒地などに群生することが多い。調査範囲では新山川の三峰川への合流点付近と、中央部の水田地帯に小規模な群落が形勢されている。 オオブタクサが上層に優占し、下層にはセリ、ヒメジソ、ツユクサなどの湿性種が生育する。
	ウシノシッペイ群落	調査範囲では、休耕したばかりの水田あるいは畑跡にみられる。 群落高は 0.6m 程度であり、優占するウシノシッペイの下層には、ヨモギ、ツユクサ、イヌタデなどの草本類が生育する。